

THE MUSEUM of MODERN ART,
Hayama

ちょうこく
彫刻は
どこにいるの？

外ではトンビに注意。食べ物を
手にもっていると、それを目掛けて
飛んでくる場合があります。

2016年夏、鎌倉館から葉山館へと彫刻(ちょうこく)がたくさんやってきました。その
ことをもっと多くの人に知ってもらいたくて、美術館は庭のマップをつくりました。
季節にあわせて美しく表情を変えていく葉山の自然とともに、美術館とその庭、そして
たくさんの彫刻を楽しんでもらえればうれしいです。

*彫刻とは、「石や金属、木などを使って立体的に作られた美術作品」です。作家はなにを想像して彫刻
を作ったのか、そしてなぜ美術館がそこに彫刻をおいたのか、いろいろ考えてみてください。

一色海岸は、海水浴客で賑わう
夏はもちろん、海と空が澄み渡る
冬もとても素晴らしい雰囲気です。
ぜひ小道を抜けて、海まで足を
伸ばしてください。

美術館内のロビーや美術
図書室(自由に入出入りでき
ます)で休んでください。

目の前のバス通りをもっと進め
ば御用邸まで徒歩5分。葉山
の町もぜひ散策してください。

葉山館にやってきた彫刻たち

- 1 イサム・ノグチ
《こけし》
1951年 万成石
- 2 木村 賢太郎 (きむら・けんたろう)
《作品-55》
1961年 石
- 3 中島 幹夫 (なかじま・みさお)
《軌 09》
1966年 石

- 4 山口 牧生 (やまぐち・まきお)
《棒状の石あるいは
Cosmic Nucleus》
1976年 黒御影石
- 5 清水 九兵衛 (しみず・きゅうべえ)
《BELT》
1978年 アルミニウム、大理石
- 6 空 充秋 (そら・みつあき)
《揺藻》
1985年 黒御影石

- 7 西 雅秋 (にし・まさあき)
《イノセンスー火》
1991年 鉄、ブロンズ
- 8 アントニー・ゴームリー
《Insider VII》
1998年 鋳鉄
- 9 《石人》
1966年 セメント
*オリジナルは、古墳時代6世紀前半の
扁平石人(若戸山古墳[福岡県]出土、
現在大分県日田市に設置)

もともと葉山館にいた彫刻たち

- 10 柳原 義達 (やなぎはら・よしたつ)
《裸婦 座る》
1958年 ブロンズ
- 11 富樫 一 (とがし・はじめ)
《ハーモニーII》
1972年 石
- 12 若林 奮 (わかばやし・いさむ)
《地表面の耐久性について》
1975年 鉄
- 13 李 禹煥 (り・うーふあん)
《項》
1985年 鉄、石

- 14 保田 春彦 (やすだ・はるひこ)
《地平の幕舎》
1993年 鉄
- 15 ホセイン・ゴルバ
《愛の泉》
1993-7年、2004年鑄造 ブロンズ
- 16 眞板 雅文 (まいた・まさふみ)
《天地の恵み》
2003年 ブロンズ、鉄、石
- 17 西 雅秋 (にし・まさあき)
《大地の雌型より》
2003-5年
漁船5艘(コンクリート型抜き)、古井戸、四阿

彫刻以外にも、
いろんな作品があります。
ぜひ見つけてください。

- 18 田中 考 (たなか・たかし)
《愛の泉》
1957年 油絵具、水彩絵具、
墨(墨汁)、パナール
- 19 鈴木 昭男 (すずき・あきお)
《「点 音」プレート・葉山
(神奈川県立近代美術館 葉山)》
2012年 コンクリート、3点組

